

<祈禱会の聖書から>

村上定幸

【重要な言葉】先週の祈禱会では、ヨハネによる福音書20:29“イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」とある箇所です。28節の“わたしの主、わたしの神よ”という最も大切な信仰告白に続く箇所になります。“私を助けてくれる”とか、その他どんな信仰理解にも勝って大切な信仰告白がここに出てきます。私たちが“私の神よ”と告白できるものになりたいと願っています。そこには、“わたし中心”とか“私を救ってくれる”といった理解は一つもありません。神様が中心なのです。沢山の場合に“私の信仰”とか“私が獲得した、私に与えられた信仰”という考えに捕らわれがちですが、中心になるのは神様です。平たく言えば“神様の決めたこと”と言って間違いありません。

【わたしを見たから信じたのか】29節で、主イエスはこのように一見不思議なことを語られます。続けて“見ないのに信じる人は、幸いである”と語られます。この聖書の箇所は一度は読んだ記憶のあるところだと思いますが、どんな意味でしょうか。25節には“そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」とありますが、こちらの方がよく理解出来たりします。どんなことが起こったのでしょうか。トマスは一週間の悩みの末、遂に主に出会うこととなります。そして彼の目も感覚も、彼のものではなくなったような主への思いに駆られることとなります。日本には“我が目を疑う”という言葉がありますが、そのような理解の全てを超えた、無条件の神という言葉がここに登場し、主は“幸いだ”と語ってくださっているのです。

【天国】この絶対の方の支配がやって来るのが天国です。“居心地の良い所”が天国ではありません。気分が良さそうだから天国に行く、とかいうものではありません。主の支配が貫かれる世界がやって来る所に行くということは“御国が来ますように”と毎主日祈る通りです。

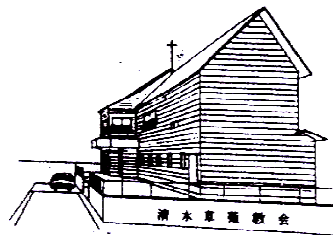
【私を離れた目】私たちは、痛い時には、その人なりになんか言うと思います。息をのむ人もいるでしょうし、思わず叫んでしまう人もいるでしょう。極端に悲しい出来事や、耐えがたいような怒りがやって来た時にも、有頂天になってしまう時にもそうだと思いますが、こころか、五感が私から離れていく時があるようです。信仰の世界においても耐えがたいほどに主に出合った時には、何かいふかもしれません。黙ってしまうかも知れません。聖書に異言という言葉が出てきますが、このことでしょうか。ルカ 13:8 に“愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう”とあります。やがての時には、必ず通じ合える異言ではない言葉で話し合うことが出来るのです。

【見なさい】しかし主は、ルカ 24:39 で“わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしたち。触ってよく見なさい”と私たちの理解にまで、やってきてくださっているのです。

【この方を迎える】クリスマスは、トマスの告白する“まことの神”を迎える時です。この方において主なる神が私たちに会って下さるのです。

週報

2011年 12月 11日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042